

次世代リーダーズサミットご門主「お言葉」(要旨)

念仏者の生き方と現代的課題

本日は、「伝灯奉告法要 首都圏協賛行事シンポジウム 次世代リーダーズサミット 誰一人取り残さない」にお越しいただきありがとうございます。

私は平成26年6月に浄土真宗本願寺派の第25代門主となりました。そして、平成28年10月1日から平成29年5月31日まで、10期、80日間にわたって、京都の本願寺で伝灯奉告法要をお勤めいたしました。本日のシンポジウムは、昨日勤まりました築地本願寺境内整備完成慶讃法要、本願寺江戸御坊創建400年記念法要に引き続き、首都圏での伝灯奉告法要を記念する協賛行事として開催いたします。

核家族化といった現代社会の状況、また首都圏という地域特性上、浄土真宗にご縁のない多くの方々に、いかにみ教えを広く伝えていくかということが喫緊の課題となっております。

伝灯奉告法要は、鎌倉時代宗祖親鸞聖人によって説かれた浄土真宗のみ教えが、聖人から数えて750余年、第25代門主となる私まで連続と伝えられ、それを有縁の皆さまとともに慶ぶことができたことを阿弥陀如来に申しあげますとともに、これから先もみ教えが広く伝わることを願って勤められたものです。法要の初日に私は、智慧と慈悲からなる阿弥陀如来のお心に

出遇った私たち念仏者が、この現実の世界でどのように生きていくかということについて、詳しく述べさせていただきました。

おさとりを開かれた皆さまの智慧の眼から見られたこの世界の真実とは、すべての物

事は限りない過去から一瞬もとどまることなく、絶えず変化・生滅しており、しかも、それらすべての物事は、必ず互いに関わりあつて存在しているということ。そのような中に、自分自身で単独に、固定した実体として存在しているものは何ひとつないのである。このありのままの真実を、仏教の専門用語では縁起・無常という言葉で解き明かされています。

しかしながら、私たちはこのありのままの真実に気づかず、常に物事を自分の都合がよいように考え、自己中心的にしか見ることができません。こうした自己中心的な考え方や物事の見方を仏教では、無明煩惱といいます。このような私たち、あらゆるものを救おうという阿弥陀如来のお慈悲の心を聞かせていただく時、自己中心的に生きられない私であることに気づかされ、少しずつではありますが、阿弥陀如来のお心に導かれ、煩惱を克服していく生き方へとつくり変えられていくのです。

先して第一に願うというような、執われのない完全に清らかな行いはいできません。しかし、それでも仏法を依りどころとして生きていくことで、他者の喜びを自らの喜びとし、他者の苦しみを自らの苦しみとするなど、少しでも仏さまのお心にかなう生き方を目指し、精一杯努力させていただきます。精一杯努力させていたたく人間に育てられていくのです。

本日のシンポジウムで取り上げる「SDGs 持続可能な開発目標」は、2015年9月のニューヨーク国連本部で開催された国連サミットにおいて全会一致で採択され、深刻化する地球規模の課題にとともに取り組むことで、人類の未来を切り開いていくことを目指したものです。「誰一人取り残さない」No one will be left behindを理念として、そこで取り上げられた課題には、「貧困」・「教育」・「ジェンダー」・「不平等」・「平和」など、世界を変革するための17の目標が掲げられています。

本日のシンポジウムでは、「SDGs」について専門的な知見を有する先生方をお招きし、学ばせていただくことで、浄土真宗本願寺派において、従来より進めている「平和問題」・「環境問題」・「人権問題」など、社会の諸問題を解決するための具体的な方向性を改めて検討し、より良い社会をつくるために果たする役割を考えていくうえでの一助となればと思っております。ともに生き、ともに学び、また共通の願いを掲げる人びとが出会い、お互いに問題意識を深め、協力して歩むことで、世界のすべての人びとが平和で心安らかに生きられる社会の実現に貢献できる機縁になればと考えております。



伝灯奉告法要 首都圏協賛行事のシンポジウム「次世代リーダーズサミット 誰一人取り残さない」の冒頭で、1000人の参加者に向けてお言葉を述べられるご門主=11月8日、築地本願寺本堂